

114
A5278

履歴書 案

熊本縣阿蘇郡高森町千六百三十四番地士族

栗林次彦

安政六年七月七日生

慶應三年ヨリ	藩儒橋原知宜ニ就キ漢學ヲ修ム
明治二年迄	藩立熊本洋學校ニ於テ英學ヲ修ム
明治四年九月ヨリ 六年七月迄	修ム
九年十月ヨリ	鹿嶋ニ藩儒會ニ藤宏ニ就キ漢學ヲ修ム
十年二月迄	
十年十月ヨリ	東京ニ松學舎ニ於テ漢學ヲ修ム
十年十月迄	
十二年二月	ニ松學舎房長ヲ命セラル



明治十年十月 司法省試檢生徒ニ及第ス

左 左月日 雇申付候事

但月俸金拾圓支給

司法省

左 十二年十月日十七等出仕ニ補ス

左 左日 弘前裁判所在勤申付候事

左

左 十三年二月日 依願免職

弘前裁判所

左 十四年十月 韓語研究ノ為ノ朝鮮國釜山港へ渡航ス

左 十五年九月 陸軍工兵大尉海津三雄ニ随ヒ元山港へ轉駐ス

左 十六年六月ヨリ 海津大尉ノ夏季旅行ニ随ヒ咸鏡平安

黄海京畿江原ノ五道ヲ巡廻ス

横紙豊善

左 十月 海津大尉ノ冬季旅行ニ随ヒ咸鏡北部

豆湍江沿岸ヲ巡廻ス

左 十七年四月日 雇申付候事

但月俸金貳拾五圓支給

在朝鮮國
元山港日本
帝國領事館

左 十一月日 依願解雇

左

左 左月 京城事変ニ付一旦帰朝國論ヲ視察ス

左 十八年一月 東京日ニ新聞社ノ特派通信員トシテ

京城へ轉駐ス

左 二十年四月ヨリ
左 六月迄 朝鮮國博文局主筆ヲ代換シ月俸

金七拾圓ヲ領ス

明治廿一年五月日	在京城日存居留民總代ニ推擢セラル	
九月	月俸金貳拾圓ヲ領ス 總代ヲ辭シ博文局ノ用務ヲ帶ヒテ歸朝ス	
廿二年二月ヨリ 廿年六月迄	東京ニ於テ大阪毎日新聞ノ高等探訪ニ従事ス	
廿七年九月廿日	雇員ヲ命ス	大卒營
廿月廿九日	雇員ヲ命ス 月俸金貳拾五圓給與	陸軍省
左	通譯官トシテ第一軍日令部附ヲ命ス	左

横紙豊華

十月三十日	義州兵站監部ニ屬シ偵察及高等通譯ニ従事ス	
十二月九日	病氣ニ依リ歸朝療養ヲ命セラル	
廿年二月十四日	第一軍附ヲ免シ通譯官トシテ大卒營附ヲ命ス	大卒營
左	御用有之朝鮮國へ差遣ス	左
左日ヨリ 廿年五月迄	在朝鮮國京城日存帝國公使館附參謀武官兼朝鮮國軍務顧問官楠瀬砲兵中佐ニ專屬シ同中佐ノ命ニ依リ通譯傍朝鮮軍務衙門ニ交渉シ	

八道軍務調査委員ヲ監督シテ
軍部組織ノ幹務ニ従事ス

明治廿八年五月六日 雇員ヲ免ス

陸軍省

今日

朝鮮國軍部補佐官ニ聘セラシ奉任
待遇ヲ以テ年俸千圓ノ約ヲ定ム

廿九年五月五日

軍部ニ於ケル約期満限ニ付解職